

# 綾瀬の水面にうつる、松と桜にいろどられた地域



## ●旭神社(水川神社)

ここには市の指定文化財である算額が所蔵されています。算額というのは、江戸時代の数学者(=和算家)が、数学の問題の解き方を書いて奉納した絵馬のことです。この算額は、市内でただ一つしかなく、県下では所沢に一面しかない宮城流という和算の流儀のもです。また、この神社では毎年10月15日のオヒマチの前に、豊作と悪疫退散を祈願して、「蛇ねじり」と呼ばれる蛇形の上り綱の奉納が行われます。



## ●草加松原

旧日光道中の草加六丁目橋付近から旭町南端までの綾瀬川沿い1.5kmに、634本の松が植えられています。江戸時代から草加松原と呼ばれていました。並木間に遊歩道があり、太鼓型の百代橋や矢立橋、人口の小川がつくられています。平成26年3月18日には、今なお「おくのほろ道」の時代の雰囲気色濃く残していることが高く評価され、国の名勝「おくのほろ道の風景地」の指定を受けるなど、草加を代表する名所です。

## ●百代橋(ひめくたいはし)

松並木の中にある、和風の太鼓型歩道橋です。橋名は松尾芭蕉の『おくのほろ道』冒頭の「月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人なり」から採られています。上に登ってみると、普段見られない草加の姿を眺めることができます。高欄は木目調で、街道の雰囲気に合わせて常夜灯が設けられています。また、階段の途中には松ぼっくりをあしらったレリーフもあります。

## ●綾瀬川

かつての綾瀬川は、川筋が定まらず、いくつもの瀬が乱流して、綾のよであったことから、この名が付けられたといわれています。綾瀬川は、現在が改修が行われていますが、何度の草加松原付近のように一直線の流路となったのは、江戸時代の初め、寛永年間(1624~1644)頃と推定されています。

## ●クワイ

正月のおせち料理や会席料理などに使われるクワイは、江戸時代には既に草加地域で栽培されていました。最近では、クワイ焼酎やクワイまんじゅうクワイプリンなど、ユニークな商品も売り出されています。

## ●宝積寺

「金明山宝積寺」と称します。本堂中央の銅造阿弥陀如来立像は、むかし茨城方面から六部(巡礼僧)が背負ってきたという伝説があります。また、両脇には市の指定文化財である千体地蔵が安置されています。この千体地蔵は、江戸後期の造立と考えられています。今日までほぼ完備した姿で伝えられる貴重なものです。

## ●河岸(かし)

河岸とは、船の荷を積み下ろす所です。綾瀬川沿いでは、藤助河岸、机場河岸などがありました。越谷市との境にあった藤助河岸は、新田地区の米の輸送に利用された所、今でもその名残があります。また、神明2丁目にあった机場河岸は、河岸場の石組みが復元され、公園として残されています。

